

## 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、多くの場合、人体に取り込まれて作用し、効果を発現させる。
- b 医薬品は、人体に複雑に作用するが、そのすべてが解明されている。
- c 医薬品は、期待される有益な効果のみをもたらす。
- d 医薬品は、人体以外には使用されない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

問2 医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品には、人の疾病の診断に使用されるものがある。
- b 医薬品には、人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とするものがある。
- c 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものなので、購入、使用にあたって専門家が関与する必要はない。
- d 薬事法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等があつてはならない旨を定めており、医薬品の販売等を行う者においても、そのようなことがないように注意すべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問3 一般用医薬品の適正使用情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a すべての一般用医薬品には添付文書があるので、購入者に情報提供をする必要はない。
- b 一般用医薬品の販売に従事する専門家においては、一度情報を得ていれば、改訂された新しい情報を入手しなくてもよい。
- c すべての一般用医薬品は、医療用医薬品より相対的に保健衛生上のリスクが低いので、購入者への情報提供は必要ない。
- d 一般用医薬品の添付文書は、必要に応じて随時改訂されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	正	誤

問4 医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用とは、医薬品を誤って使用したときに起こる有害な反応をいう。
- b 副作用は、眠気や口渇等の比較的良好に見られるものから、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものまで様々である。
- c 適正に医薬品を使用していれば、副作用は起こらない。
- d 医薬品は、複数の疾病がある人に使った場合、ある疾病に対しては薬効をもたらす一方で、別の疾病に対しては症状の悪化を引き起こすこともある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問5 アレルギーに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギーとは、免疫機構が過敏に反応して、好ましくない症状が引き起こされることである。
- b アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こりうる。
- c 医薬品によるアレルギーは、内服薬だけで起こりうる。
- d 医薬品によるアレルギーは、その有効成分によってのみ引き起こされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	誤

問6 一般用医薬品による副作用への対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用の兆候が現れても、通常はその疾病が治るまで同じ一般用医薬品を継続して使用することとされている。
- b 副作用は、直ちに明確な自覚症状として現れないこともあるので、継続して使用する場合は、購入者等に対して、定期的に検診を受けるよう促すことも重要である。
- c 購入者等から副作用の発生の相談があった際は、副作用の状況次第では、購入者等に対して、速やかに適切な医療機関の受診を勧奨する必要がある。
- d 医薬品を使用する人が副作用をその初期段階で認識することにより、副作用の種類に応じて速やかに適切に処置し、又は対応し、重篤化の回避が図られることが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問7 医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、購入者等の誤解や認識不足のために適正に使用されないことがある。
- b 「薬は多く飲めば早く効く」と短絡的に考え、定められた用量を超える量を服用すると有害事象につながる危険性が高い。
- c 医療用医薬品については、一般の生活者が自己判断で使用を中止しても良い。
- d 一般用医薬品の販売等に従事する専門家が、購入者に対して正しい情報を適切に伝えていれば、医薬品を使用する前に添付文書や製品表示を必ず読むよう説明する必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問8 医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。
- b 習慣性や依存性がある成分を含む医薬品は医療用医薬品だけであり、しばしば乱用されることが知られている。
- c 医薬品を本来の目的以外の意図で、みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取するといった乱用を行うと、過量摂取による急性中毒等を起こす危険性が高くなる。
- d 適正な使用がなされる限りは安全かつ有効な医薬品であれば、乱用により一度、薬物依存が形成されても、そこから離脱することは容易である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問9 医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 複数の医薬品を併用した場合、又は医薬品と特定の食品（保健機能食品や、いわゆる健康食品を含む。）を一緒に摂取した場合に、医薬品の作用が増強したり、減弱したりすることを相互作用という。
- b 相互作用により、医薬品の作用が増強することは、その医薬品の効果がよく発揮されることになるので、よいことである。
- c 医療機関で治療を受けている人は、一般用医薬品を併用してもよいかどうか、診療を行った医師若しくは歯科医師又は調剤した薬剤師に確認する必要がある。
- d 医薬品の成分と同じ物質が食品中に存在するものもあるため、同じ成分（物質）を含む医薬品と食品を一緒に服用すると過剰摂取となることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	正

問10 プラセボ効果に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをいう。
- 2 医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待が関与して生じることがある。
- 3 時間経過による自然発生的な変化が関与して生じることがある。
- 4 プラセボ効果によってもたらされる反応には、不都合なもの（副作用）はない。

問 11 小児の医薬品の使用に関する記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

小児は、医薬品を受けつける生理機能が ( a ) ため、その使用に際して特に配慮が必要である。例えば、小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が ( b )。

また、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため ( c ) に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。加えて、( d ) の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄に時間がかかり、作用が強くと過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。

	a	b	c	d
1	未発達である	高い	中枢神経系	肝臓や腎臓
2	発達している	低い	末梢神経系	心臓や腎臓
3	発達している	高い	中枢神経系	心臓や胃
4	発達している	低い	末梢神経系	肝臓や腎臓
5	未発達である	高い	中枢神経系	心臓や胃

問 12 小児の医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような使用は避けるべきである。
- b 5歳未満の幼児に使用される錠剤、カプセル剤等の医薬品では、服用時に喉<sup>のど</sup>につかえやすいので注意するよう添付文書に記載がある。
- c 乳児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品であれば、医師の診療を受けることよりも一般用医薬品による対処を優先させてよい。
- d 家庭内においては、小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するために、小児が容易に手に取れる場所や小児の目につく場所に医薬品を置かないようにすることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	正

問 13 高齢者に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において、高齢者とはおおよその目安として65歳以上を指す。
- b 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあるので、医薬品の副作用を生じにくい。
- c 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあるので、定められた一般用医薬品の用量以下に量を減らしても十分に効果が得られ、リスクの軽減にもつながる。
- d 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用により、基礎疾患が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	正	誤

問 14 一般用医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊婦が医薬品を使用するときは、「相談すること」としている医薬品が多い。
- b 妊婦が便秘薬を使用するときには、配合成分や、その用量に注意する必要がある。
- c ビタミンAを含有する医薬品を、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取する場合には注意を要する。
- d 授乳中の女性が医薬品を使用すると、乳汁中に医薬品成分の一部が移行する場合もあるため、販売に際しては、積極的な情報提供が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	正	誤	正	正

問 15 医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、適切に保管、陳列をしなければ、効き目が低下したり、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。
- b その品質が承認された基準に適合しない医薬品、その全部または一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品の販売は禁止されている。
- c 適切に保管されていれば、開封された液剤でも表示されている「使用期限」までの品質は保証されている。
- d 医薬品は、適切に保管、陳列されていれば、経時変化による品質劣化はない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	誤

問 16 胃・十二指腸潰瘍<sup>かいよう</sup>を悪化させるおそれがある成分はどれか。

- 1 マルツエキス
- 2 ロートエキス
- 3 アスピリン
- 4 酸化マグネシウム

問 17 一般用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、医療機関で治療を受けるほどではない体調の不調や、疾病の初期段階に使用されている。
- b 一般用医薬品は、生活の質（QOL）の改善・向上の役割も担っている。
- c 同じ一般用医薬品を一定回数使用しても症状の改善が見られないときは、医療機関を受診して医師の診療を受けることが望ましい。
- d セルフメディケーションを適切に支援していくためには、購入者に対して情報提供する際、一般用医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合もある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	正	正
5	正	誤	誤	正

問 18 一般用医薬品を販売する際の購入者への確認事項に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を何のために購入しようとしているのか、確認が必要である。
- b 使用者のアレルギーや医薬品による副作用の経験の有無は確認が必要である。
- c 今服用している他の医薬品についての確認までは必要がない。
- d 医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか、確認が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	誤	誤

問 19 次の訴訟とその原因となったものについて、正しい組み合わせはどれか。

	スモン訴訟	H I V 訴訟	C J D 訴訟
原因となったもの	a	b	c

	a	b	c
1	プラセボ製剤	キノホルム製剤	血液凝固因子製剤
2	キノホルム製剤	ヒト乾燥硬膜	血液凝固因子製剤
3	キノホルム製剤	血液凝固因子製剤	ヒト乾燥硬膜
4	プラセボ製剤	ヒト乾燥硬膜	キノホルム製剤

問 20 次の記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の ( a ) 内はどちらも同じ字句が入る。

クロイツフェルト・ヤコブ病 ( C J D ) は、細菌でもウイルスでもない蛋白質<sup>たん</sup>の一種である ( a ) が原因とされ、( a ) が脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る神経難病である。

生物由来の医薬品等による ( b ) や C J D の感染被害が多発したため、2002年の薬事法改正に伴い、生物由来製品の安全対策強化、( c ) による生物由来製品による感染等被害救済制度の創設等がなされた。

	a	b	c
1	ヘモグロビン	H I V	独立行政法人医薬品医療機器総合機構
2	プリオン	H A V	都道府県
3	ヘモグロビン	H I V	都道府県
4	プリオン	H I V	独立行政法人医薬品医療機器総合機構
5	ヘモグロビン	H A V	都道府県